

ISOタンクコンテナでローリー代替めざす

ISOタンクコンテナを輸入販売するジェイ・トラッドの北野宣幸社長は「国内の液体バルク輸送はいぜんとしてローリーが中心だが、ローリーの代替として普及を目指す」という。ISOタンクコンテナは海上輸送から出発しているため運送会社が購入したいと思っても購入ルートすら分かっていらず、リースが中心となっている。同氏は危険物物流会社の出身。その知見とノウハウを生かし、例えば販

パーソン



ジェイ・トラッド社長

北野 宣幸 氏

売したISOタンクコンテナを荷主との契約終了後に下取ったり、リースバックや買い取りオプション付きリースなど顧客の状況に応じた多様な方法を提案できる。

同社は昨年7月の設立。創業した理由について「31歳で中国現法の社長になった。同世代の中国人が起業しているのを見ていたし、起業しないのかと言われたこともあった。実家は商売をしているのでいつかは自分も起業したいと思っていた」と語る。

新市場・新用途の可能性探る

ISOタンクコンテナは化学・石油・食品・飲料の輸送のみならず、さまざまな液体を運ぶことが出来る。また輸送だけでなく貯蔵など新たな用途も考えられる。「ISOタンクコンテナの国連での正式名称はUNポータブル。液体を入れるポータブルな容器として可能性は無限にある」とし新規市場を積極的に開拓する。「将来、自動運転が普及すると幹線道路をISOタンクコンテナで運ぶといった可能性も広がってくるかもしれない」と未来に思いをはせる。また「リースタッカーを使わずシャーシから下ろすことができるストレージフレームの販売も検討したい」と取扱商品の幅も広げる。